平成30年度　第2回秋葉区教育ミーティング　会議録概要

開催日時	平成31年1月30日（水）午後1時00分から午後2時30分まで
会　　場	秋葉区役所　6階　601・602会議室
出 席 者	秋葉区自治協議会委員　20名（欠席　1名）
	教育委員：山倉教育委員，市嶋委員
	事 務 局：教育総務課長，学校支援課長補佐，新津地区公民館長， 秋葉区教育支援センター所長　他　1名
	秋葉区役所：熊倉区長，小野副区長
	傍 聴 者：　2名
議　　事	1　開会
	2　教育委員挨拶（山倉教育委員，市嶋委員）
	3　平成30年度全国学力・学習状況調査について（学校支援課課長補佐）
	4　秋葉区の子どもたちが地元に住んで働くために
	5　閉会
議事録	（司会　秋葉区教育支援センター所長）

司会　　第２回秋葉区教育ミーティングを開催いたします。
それでは、秋葉区担当教育委員からごあいさつをお願いしたいと思います。

教育委員　　秋葉区の皆様、こんにちは。私がこちらの区を担当させていただいてもうじき２年になります。その間、秋葉教育懇談会に２回参加させていただきました。そこで皆様のお話を聞いていると、秋葉の皆様は自分たちの住んでいるこのまちがとても大好きなのだという気持ちが伝わってまいりますし、また子どもたちも新津第一小学校の情報ボックスとか、あきはこども大学、秋葉の新津のうたで子どもたちが作詞にもかかわっているということで、本当に子どもたちを地区全体で大事に育て盛り上げて、子どもたちが主役になるようにしてくださっているのだということがとても伝わってまいりました。
また、今日はテーマとして秋葉区の子どもたちが地元に住んで働くためにということで、アキハスムプロジェクトを進めているこちらの区ならではだと思って考えてまいりました。　このあとグループ討論ということになりますので、皆様のお話をたくさん聞いて帰りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

司会　　ありがとうございます。続けてお願いします。

教育委員　　皆様こんにちは。私も教育委員をさせていただいて、この秋葉区のこの会に出させていただくのは２回目になります。本当に前回に引き続き、忙しい中集まっていただいて本当にありがとうございます。

本日の議題は、まずは平成30年度の全国学力学習状況調査の結果ということで、私も拝見させていただきましたが、いずれも秋葉区の子どもたちは全国平均より概ね高い結果がほとんどだということで、こういった取組みも日ごろ地域の皆様、また学校関係者の皆様の努力の結果が出ているのではないかということで、こちら本当に敬意を表するところでございます。

また、意見交換では秋葉区の子どもたちが今後どうやってこの地元に住んで働いていくのかということをテーマにされるということですけれども、私は南区に住んでおりまして、このテーマを自分のことのように課題に感じて過ごしているところでございます。このテーマがこの自治協議会の皆様方の教育ミーティングの議題で挙がってくること自体、日ごろから子どもたちのこれからの将来を考えていらっしゃる皆様の考え方として、今日、この議題が挙がってきたということは素晴らしいことだと思っております。

私は30歳まで東京におりまして、地元に戻ってきて仕事を始めた一人でございますので、こういったことをやればうまくいくということではないかもしれませんけれども、複雑な理由で私のように地元に住んで子どもを育てて働くという若者がこれから増えていけるように、今日はいろいろな取組みを聞かせていただいて、また秋葉区は３万世帯くらい世帯数があるということでございます。今後、10年後くらいには４分の１の方が後期高齢者になる時代ということで、自然減は避けられない中、社会減をどうやって止めていくかということの課題につきまして、ぜひ皆様からいろいろなご意見をいただきまして、私も学んで帰らせていただきたいと思っております。今日はよろしくお願いします。

司会　ありがとうございました。次に出席者の紹介ですが、本日のミーティングは主に自治協議会の教育を担当する第３部会の委員の皆様にご出席いただいております。また、第１部会、第２部会の委員の皆様も参加を希望される方がこちらにご出席いただいておりますので、よろしくお願いいたします。

本日のミーティングは公開ということで、記録を作成するため録音および写真を撮らせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

なお、本日の会議概要につきましては、後日、教育委員会のホームページに掲載させていただきます。

また、本日のミーティングの終了時間は、このあとに自治協議会がございますので14時半とさせていただきます。ご協力よろしくお願いいたします。

それでは、次に資料１の２ページをご覧ください。次第４に入ります。平成30年度全国学力・学習状況調査の新潟市の結果について、学校支援課課長補佐から説明をお願いいたします。

学校支援課　こんにちは。第１回に引き続きまして参加させていただきます。よろしく

お願いいたします。

４月に行われました全国学力・学習状況調査の新潟市の結果、秋葉区の結果についてお話をいたします。２ページの資料１をご覧ください。小学校６年生と中学校３年生がこの調査を受けます。教科といたしましては、国語と算数。中学校では数学になります。そして、今年度は理科も実施いたしました。一番左側が秋葉区の学校の平均の数値でございます。真ん中が新潟市、そして右側が全国平均。一番右側が新潟市を含まない新潟県の平均でございます。この中で、新潟市は全国学力・学習状況調査の結果が大変素晴らしくて、政令市の中では全国上位の成績でございます。特に、小学校６年生は昨年度は政令市の中でトップでございました。今年度は、京都市が小学校の上位にきましたので、全国で２番目ということでございました。中学校につきましては、こちらも昨年も今年もベストテンに入っているということで、昨年よりも中学校成果が表れ始めてきているところでございます。

その中で秋葉区ですけれども、他の区と違う傾向が見られると私はこの数値を見て感じました。というのは、およその区では中学校より小学校のほうが全国平均よりもかなり数値がいいという状況があるのですけれども、秋葉区の場合はご覧のとおり小学校６年で市の平均を上回っているのが算数Ｂというところだけなのです。もちろん、全国平均につきましてはすべての項目で上回っているわけなのですけれども、市の平均と比べると小学校のほうは市の平均より若干下回っている状況がうかがえます。

一方、中学校のほうが市の平均を上回っているのが国語Ｂ、数学Ａ、数学Ｂ、理科ということで合計の平均も新潟市の平均を大きく上回っています。もちろん、小学校が怠けていて、中学校が頑張っていると一概に言えません。逆に、他の区に比べて中学生のほうがよく頑張っているという捉えができるのではないかと感じています。

ただ、この数値につきましては、本当に４月の１日時間をかけて検査を受けるわけですのでそのときの調子とか、よその政令市や県が頑張るとかいろいろな要素が絡んできますので、この数値の上下のみで一喜一憂する必要はございませんけれども、傾向といたしまして特に中学生が頑張っている様子がうかがえるといっていいかと思います。

続きまして資料２、Ａ３で折り畳んでいただいてあるものが２枚にわたって示してございますが、これは児童、生徒質問紙というものでございます。これは、子どもたちに学習に関するいろいろな質問がなされまして、それについて子どもたちが回答した割合が示してございます。もちろん、数値が高いほうがよい傾向であるといえるのですけれども、これを拝見いたしますと、どちらのページも左側が小学校の結果です。右側が中学校の結果です。

秋葉区につきまして、小学校は質問が 53 項目あるのですけれども、そのうち、市の平均を上回っているものが９項目ございました。中でも、かなり数値が市の平均を上回っているといえるのが、１ページ目の真ん中あたりの

（20）と書いてあるところです。今、住んでいる地域の行事に参加していますか、というところが全国平均は 62.7 ポイントに過ぎません。市の平均も 73.2 ポイントなのですが、秋葉区につきましては 80.5 という高い数値が出ています。それから、その三つ下の（23）地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか、というところが全国では 36.1 パーセント。新潟市は 44 パーセントなのですが、53.0 パーセントというこちらも高い平均数値を示しております。小学校につきまして、特にこのあとの話題にもなるかと思うのですけれども、地域の皆さんから大変お世話になりながら本当に地域社会の中に溶け込み、地域の中で育てていただいているということがうかがえます。

中学校でございます。中学校は、先ほどのテストの数値と連動をしているのかもしれませんけれども、中学校は 52 項目質問があるのですけれども、そのうちの 43 項目で新潟市の平均を上回っているという素晴らしい結果が出ております。こちらも四十何項目もあるのですけれども、特に数値的に素晴らしいと思ったところを申し上げます。１枚目の（10）家で自分で計画を立てて勉強していますか、61.5 ポイント。その下の家で学校の宿題をしていますか、94.4 です。

実は新潟市全体の傾向といたしましては、小学校のときよりも中学生になったときのほうが家庭での学習時間が減ってしまうという現象があるのです。全国学力・学習状況調査で常に上位にあります秋田県、福井県、富山県であるとかは、逆に小学校より中学校のほうが家庭学習時間が長いという当たり前といえば当たり前の傾向があるのですが、新潟市の場合はその逆の傾向があるのですが、秋葉区の中学校については家での学習も大変頑張っているという状況がうかがえます。それとも関連いたしますが、（14）学校の授業時間以外に普段１日当たり１時間以上の勉強をしますかというところも、全国平均、市の平均を上回っています。

続きまして（20）から（23）。ちょうど一まとまりになっているところなのですが、ここの四つの項目につきましても市の平均を大きく上回っております。（20）につきましては、市の平均が 49 パーセントなのに対して 66.6 パーセント、３人に二人の生徒が「はい」と答えているわけです。これは、小学校にも共通しています。今、住んでいる地域の行事に参加していますかという数値が大変高いのです。

同じように（23）ボランティア活動に参加したことがありますか。これも、およそ３人に二人の子どもが「はい」と回答しています。これも、小学校と同様の傾向が見られます。これらのことから秋葉区全体の傾向、数値のみで判断したに過ぎないのですけれども、中学生が大変よく頑張っているということと、それから地域の皆様から地域の行事などを通して育てていただいているということが全般的な傾向として伺えるのかと解釈をしているところでございます。

このあとの話題にもなるかと思いますけれども、新潟市では「大好きにいがた体験授業」というものを位置付けておりまして、予算をつけて指定校も取り組んでいただいたりしているのですけれども、指定校になる、ならないにかかわらずすべての学校で総合的な学習の時間において、地域と密着した連携協働した学習を位置付けてくださいとお願いしています。その成果の一部が図書館にもおいてあるのですけれども、「にいがたきらっと発見ＢＯＯＫ」という形で成果として示されておりまして、中に秋葉区の小中学校も紹介されておりますので、機会がございましたらぜひご覧いただきたいと思います。以上、雑ぱくでございますが、私からの説明といたします。

司会　ありがとうございました。それでは、ただいまの説明について質問、ご意見のある方挙手願います。よろしくお願いいたします。

自治協委員　今ほど、補佐から詳しい説明を大変ありがとうございました。子どもたちが地域の中で育てられているということは、自分たちのやっていることを考えて振り返ってみて、本当にそうなのだなと、数値にも表れていていいと思っております。

ところが、秋葉区は中学生が非常に頑張っていますという話があったのですが、本当なのだろうかという疑問なのです。確かに今年度のこの数値を見ると、理科は今年初めて入ってきたので、国語、数学だけで見ると、全国平均よりもプラス 9.2 で非常にいいかと思うのですけれども、これが中学生が頑張っているという評価ですが、今、中学３年生の子どもたちが３年前に小学校６年生の子どもであったときのことを調べられましたか。比べられましたでしょうか。教育委員会学校支援課としては比較していますか。大事なことだからぜひ比較していただきたいと思うのです。

私の記憶が間違いなければ、この子どもたちは平成 27 年度に小６だったはずでございます。そのときはたしか全国比プラス 20 以上、28 くらいだったのではないかというふうに、とてつもなくいいなと思ったのです。それが、そのとき中学生になるとなぜ下がるのかという問題が何年も私はお話をさせてもらっていますが、簡潔に言います。こんないい子どもが、中学３年生になっていいのは当たり前ではないかと。それが、中学生は昨年まで平成 29 年度全国比がマイナス 1.5 だったのです。それが 9.2 になったから頑張っているというのは分析、方向がおかしいのではないですか。いい子だから、これだけ中学３年生になってもいいのですと。むしろ、20 くらいプラスだったのが９くらいに下がってしまったってこと、そこが問題なのではないですかと思うのですが、いかがでしょうか。

学校支援課　大変ありがたいご指摘をいただいたと思っております。実は昨年の中３がやはり３年前に、それこそ秋田を抜いて全国でトップであったということか

ら、昨年はどうだったのだろうということで、昨年度につきましては３年前の小学６年生と昨年の中３と比較したという分析を行ったのですけれども、今年は支援課で３年前と比較した分析を行っておりませんで、今年のこの数値のみを見てお話をいたしましたので、今牛腸委員からもご指摘いただいたことはご最もなことだと思いますので、また今の中学生が３年前からどうであったのかという分析はぜひ行ってみたいと思っております。大変貴重なご指摘をありがとうございました。

自治協委員　　コミュニティ協議会代表で出ていまして、この表の分析の中で、(20) 今、住んでいる地域の行事に参加していますかということで、すごい 80.5、秋葉区はすごいと思ったのですけれども秋葉区も広いですので、我がコミュニティ協議会の地域の学校はどうなのかとふと思いました。そういう地域別のものの数値というのは出ていますでしょうか。もし、出ていたら教えていただいて、今後の参考にしたいとは思います。

学校支援課　　もちろん、学校別の数値はございますけれども、学校ごとの数値は公開をしていないというところが原則でございますので、直接校区の学校にお問い合わせいただきまして、秋葉区全体の傾向としてはこうであったのだけれども、うちの地区ではどうなのでしょうかと、ぜひ校長先生にお尋ねになってみてはいかがでしょうか。

司会　　ほかにいかがでしょうか。

自治協委員　　この学力の調査のところですが、数学とか理科はありますが、国語に関するものが載っていません。これは県とか何かの問題ではなく、国の問題ですけれども、なぜないのかということが一つ。私は国語は非常に大事だと思うのです。ところが、国語が繰り返して見ても見つからない。これは国、文部科学省の問題だと思いますが、そんな単純な質問が一つ。

学校支援課　　国語が大切であるということは、おっしゃるとおりだと思っております。ただ、この質問紙の項目につきましては文科省で作成をしておりますので、なぜないのかということは私もお答えできる情報を持っていないのでございます。よろしいでしょうか。

自治協委員　　国語は、むしろ私は一番大事だと思う。基ですよ。それがないということはどうしてなのかと。

司会　　確認しておきます。

自治協委員	私は、個人的にはこの学力検査というものは本当に必要性があるかどうかという疑問を持っているのです。すごく否定的な考え方を持っている一人ですけれども、そもそも全国の検査というのは導入される当初はいろいろな議論がありましたよね。本当にこれは必要かどうかという議論もあったでしょうし、それが現在は定着してきましたけれども、逆に学力検査をやることによって学校間で競争といいますか、学力の競争をさせるというようなことにもなっています。ある意味では本来の本当の意味での学力に気づいているかどうかという、ただ点数だけがよければいいという教育の偏重といいますか、そういう面も無きにしも非ずと思うのです。そういう中で続いてきている学力検査を、今の学校の現場ではどういうとらえ方をしているのか。ただ、素直に受け取って、文部省がやっているから継続するということで続いているのか、それが１点。少し抽象的な質問で恐縮ですが、そういう考え方が一つ。こういう問題はどういう形で作られるか、具体的にもし分かったらその２点だけお願いします。
司会	他にございますか。もしあればそれで終わりにしたいと思うのですが、よろしいでしょうか。あと，そちらの３人で終わりにさせていただきます。
学校支援課	ありがとうございます。この調査に対する学校の受け止めにつきましてはさまざまな受け止めが学校によってあると思いますので、一概には言えないと思うのですけれども、中にはこの数値のみに一喜一憂する必要はないだろうと受け止めている学校も当然あるでしょうし、それこそ地域と連携した波及活動こそ大事であると受け止めている学校もあると思います。 ただ、数値がよければそれもまた子どもたちの励みにもなるということから、これだけを目指して日ごろ学習しているわけではありませんが、一つの目安として、もしよかったのであれば子どもを褒める材料にもなりますし、もし数値的に落ちているところがあれば、どこが悪かったのだろうと分析して、今後の指導に生かすという意味から、学校に順位をつけるとか評価するということではなくて、自分の学校の実態を把握してそのあとに生かす、そしてそれが褒める場合もあるでしょうし、課題を解決する場合もあるでしょうが、そのように活用していきたいととらえている学校もあるのではないかと思っています。ですから、受け止め方はさまざまだろうけれども、そんなに否定的な声は教育委員会では直接耳には届いてきてはおりません。実際、分かりませんけれども。 それから、問題はどう作られているのかにつきましては、それは国でおそらくそういった作成委員を募って作っていると思います。これは丸秘で進められていますので、私もどんなふうに作られているかを私も知りたいと思っているくらいでございます。

自治協委員	私も学校に総合学習ですとかキャリア教育で行く機会も何度もあるので、そこで少し漠然と感じていることですけれども、学校現場は今従来型の点数を記憶の量を競うみたいな、今いわゆる点数でというそういう価値基準を未だ現前と残っていつつ、これから教育指導要領が変わる、実質変わったということで新たな対応も現場が求められていて、何か両方を今追い求めている状態でどっちつかずという何か大変さだけが増しているような印象で、先生方も息苦しくてそれに伴って感受性の強い子どもたちも息苦しくなっているのではないかと思っていて、やはりそもそも学校で何を望むかということをもう少し整理して学校に発信してあげたほうがいいのではないかと思っていて、学力だけ目指すのだったら私は中学校とか行く必要がないと思っているので、それではなくて、学校は何をするところなのだというところを先生にも子どもたちにも教育委員会から発信していただいて、その目的を達成するためにうちの学校では何をしなければいけないのかというところを落とし込んでいただくことがすごくいいのではないかと思うので、ある指標として点数を今この場で議論することは一つの指標としてはすごくいいことかと思うのですけれども、やはり今後社会に出ていって、この秋葉区なり新潟を支えてもらわないと困る子どもたちですから、主体的に考えて行動していけるようなそういう経験を小学校から高校、大学も地元にありますのでそんなところを連携して実施するようなカリキュラムというかプログラムをぜひ、トップダウンというわけではないでしょうけれども、教育委員会で支援して、それぞれの学校が地域性を生かしたカリキュラムが作れるような支援体制をぜひ作っていただければと思います。
司会	ありがとうございます。これはご意見ということでよろしいでしょうか。
自治協委員	今日はありがとうございます。私も孫がいまして、そのうち一人は小学校に通っています。もう一人は中学に行っています。小学校の子どもですけれども、それこそ数学が分からない。けっこう皆さん、この学テによると標準よりいいというか、新潟市の秋葉区はあれですけれども、うちの子は算数が全然分からないと。このままにいくと中学になったら全く授業についていけない、そんな状況になりますと担任から言われたそうです。本当に基礎学力というものは大事だと思うのですけれども、そういう分からない子どもたちのフォローを、やはりどの子も基礎学力がつくように。学テで順位をするのは私も少し疑問に感じていますが、そういう分からない子のフォローはお金を出せば塾とかいろいろあると思いますけれどもそういうことは、学校での取組みとかそういうことはやっていますでしょうか。教えてください。
学校支援課	このままではついていけなくなりますと、人ごとに言っている教師はだれだろうと思ったのですけれども、どの学校でもやはり一人ひとりの子どもに

応じた指導を心掛けようと先生方は本当に努力をされていると私は受け止めております。あとで、こっそりどこの学校か教えていただければと思います。

先ほどからこの数値、数値と話題になっておりますけれども、私も本当にこういったコーナーがあって報告をするので分析をした結果をお伝えしておりますが、教育委員会として本当に数値だけを追い求めていくのではなく、先ほどからお話をいただいている地域の皆様と連携しながら本当に血の通った教育活動というのでしょうか、子どもたちの心を豊かにするような教育活動、もちろん教育委員会全体として大事にしているところでありますので、それにつきましてはぜひご理解をいただきたいと思います。本当に数値だけを教育委員会が追い求めているのではないということです。

個に応じた指導ですけれども、私の立場でいえばどの学校でもどの教室でも子どもに寄り添った指導、その子に応じた指導が行われているはずですと申し上げたいと思っておりますが、もしそうでない現状があるようでしたら、その学校の管理職の先生ならびに相談できる方ご相談いただければと思っております。もし、実際にそういう現状があってご迷惑をおかけしているのであれば大変申しわけないことだと思っております。

自治協委員　よろしくお願いします。まず、学力の問題を皆さん討議されているといいますか、考えているわけですけれども、一つ紹介させていただきます。先ほどもそちらの事務局で紹介があったのですけれども、第一小学校の３年生を対象に水曜日の５校時目。結局、ほかの学年は６校時までやっているのです。その５校時目を自学広場、要するに自分の自、学習の学で、自学広場というものを設定しまして、小学校３年生を対象に今、やっております。教育ボランティアの方も参加していただきまして。

最初は、居場所づくりということで設定をさせていただいたのですが、やはり子どもたちは、学ぶ意欲が結局自然とわき上がってきまして、今は学習のほうが中心になっているという、そういうことを今第一小学校で行っております。もちろん、学校教育の領域を侵犯する、侵すということはないようにしまして、本当に学習のフォローということを現在やっております。本当に子どもたちが生き生きと学習していますので本当にいいことだと思って、仕掛け人としても大変ありがたいと思っております。

司会　まだ、言い足りないものについてはこのあと、紙を配りますので。何かご意見がある方。いいですか。

次が重大なテーマがありますので、そちらにいかせていただきたいと思います。

それでは、次の次第５の意見交換に入りますが、今日のテーマは秋葉区の子どもたちが地元に住んで働くためにということで資料を用意させていただ

きました。５ページをお開きください。ここからが資料になります。これ、１ページ目は前回の様子です。６ページを見てください。①子どもたちに秋葉区への愛着と誇りを育むために学校も地域も行政もさまざまな取組みを行ってきました。秋葉区は、本当に学校と地域、行政が連携して素晴らしいですね。先ほど成果、学校支援課課長補佐から大変いいデータをいただきました。おそらくこの取組みの結果だと捉えています。地域、学校、行政のこの連携の成果だと捉えております。行政では、アキハスムプロジェクトというところで住んでよかったと思えるようなところにしたいということで取り組んでいます。

７ページからは学校区ごとに何をしているかとまとめてあります。上のほうは第一中学校区、一小と三小が載っています。下のほう第二中学校区、荻川と結。こんな感じで五中、小合中、金津中、小須戸中それぞれの校区でそれぞれの特徴ある活動行っております。

10 ページを見てください。10 ページを見てください。10 ページはこの第３部会が昨年度から取り組んできた子どもたちへの愛着と誇りと育むための非常に大きな事業だと思います。お金を使って子どもたちのために地域の宝を体験させてあげようということで、昨年と今年と 10 ページ、11 ページ取り組んでおります。

それから、11 ページの下、二つ目の問題として子どもたちに愛着と誇りは育んだけれども、秋葉区に住んで働くことができるようにするためにはこれからどうすればいいのか。何でそんなふうに思うかというと 12 ページをご覧ください。先ほど、市嶋委員から社会動態の話がありましたけれども、秋葉区は何と新潟県で最も社会動態が多いところということで、要するにたくさん入ってくるところです、ということで丸を付けてあります。

では、細かく見てみるとどうかということで下の方を見ていただくと、一番大きな山になっているところは住宅でこちらに移ってきている人 30 代前半から後半の人でしょうか。こちらの方が非常に多いと。これはアキハスムプロジェクトの成果といえるのではないかと思います。ただ、その下のほう、これは市全体の傾向にもよります。秋葉区だけの問題ではありません。むしろ秋葉区のほうが少ないのかもしれませんが、大学や専門学校を卒業後、就職による転出がやはり最も多いと。どんなに住む人が増えても就職するときに出てしまってはなかなか増えることはありません。

もっと細かく見たらどうかということで、13 ページ高校生の動向を見たときどうかというと高校生は、青いのが求人で、求人はこれだけあるのだけれども行く人はその真ん中くらいまで。これは行っていないのではなくて、もういっぱいいっぱいなのです。285 止まりなのです。これ以上高校生がいないということです。求人はあるけれども、行く人がいないということです。この辺が外国人労働者とかそういうことになるのかもしれません。

下のほうを見ますと職種ごと、中括弧がついているところは足りている、

足りていないというところです。したがって、販売、製造、建設業界、この辺は人が足りないということです、やはり。

14ページご覧ください。14ページは高校生です。そしたら、どこに就職しているのかというと、管内というのは秋葉区、南区、五泉、東蒲です。これは、ハローワーク新津の管内です。この管内で就職している人たちが３分の１くらいいるということです。高校生が意外といる。しかも、県内就職も入れるとほとんど県内か管内に就職している。高校生はけっこう地元に残ってくれているということです。県外に行っている子がやはり一番右側にいますから少しずつ増えていますけれども、そんなに多くはないです。

その下を見ますと、秋葉区はどうかというと、そんなに特徴もないですけれども、南区がものすごい求人があるのだけれども、あまり残っていないということが挙がっていますでしょうか。右側いきまして、今まで五泉、秋葉、南、東蒲だったのですけれども、今度新潟県全体で見たときにどうかというと、新潟県全体で見てみるとやはり求人はあるのだけれども、残っている高校生は少ない。これも結局、頭打ちですよね。3,000 くらいしかいない。これ以上はいないということです。高校生は頑張って県内に就職にしているということです。下のほうを見てみますと、同じような状況が書いてあります。

16ページを職種別に見ると、先ほどの管内と同じような傾向です。建設業界、製造業それぞれ求人のほうが赤で多いのですけれども、就職している人は少ない。要するに人がないわけです。高校生はだからそれだけ頑張っているというか、県内に留まって一生懸命働いている。

それに対して17ページ。問題は大学生なのですけれども、大学生は就職している人はたくさんあがっているのです。上の図を見てみると分かるようにどんどん就職率が高まっている。働きたいといって働いている人は県内ではこれだけいるのですけれども、問題は県内にどれだけきているかというとその下。働きたいといって、働いている人はたくさんいるのだけれども、県内に残っている人がどんどん少なくなっていると。県内就職の内定率が毎年下降してきているということが、今だから50パーセントを切りそうな勢いにどんどん減ってきている。

18ページを見てください。これは、東京と新潟の有効求人倍率の差が拡大すると、県外要するに東京のほうがたくさん就職率、当然ですよね。当然といったらいいのかどうか分かりませんが、東京に就職する場所がたくさんあるとそちらに流れていってしまうというその傾向が強いと。赤は、差です。東京と新潟の差が結局この赤い線なのですけれども、そうすると青線、そちらにいく人が増えていると。その傾向にあると。高校生も同じと。東京が増えていけば当然そちらのほうに流れていくと。

こう見ていくと、高校生はある程度管内あるいは県内にとどまっているのだけれども、大学生がかなり流出していっている。ここをどうすればいいのかということが今日の話し合いになります。一番最後に書きました、若者が

住んで働けるようにしてあげたいですね。人生の始まりと終わりにいたい場所、そんな秋葉区に住みたいということで最後書いてあります。これらの資料を基にして、20ページの話し合いにこれから移っていきたいと思います。

それでは、話し合いに入る前に、これから話し合いをもう一つのヒントとして秋葉区の取組みを写真だけでなく、ビデオでも紹介させていただきたいと思います。お手元に歌詞カードがあります。これは、紹介するビデオのＢＧＭが「あなたに出逢えたこの町で」の新津の歌ということになっています。これは、プロの歌手である五泉市出身の落合みつをさんが作詞作曲された歌で、新津だと、結局、新津の歌ではないのですかと言われがちなので、私のほうで、秋葉区全部でいけますよということで替え歌を作ってあります。一番下に替え歌を作ってありますので、これを当てはめると秋葉区全部の歌になりますということで紹介させていただいております。そんなふうなことをイメージしながらご覧いただきたいと思います。

（動画観賞）

司会　ありがとうございました。このような形で、秋葉区は学校と地域、行政が連携して取り組んできているということはよく分かるかと思います。どうもありがとうございました。

このあと、席を移動していただきます。
申し訳ありません。表紙の裏に席の移動の順番が書いてありますので、それをご覧いただいて、そのあと机を移動お願いいたします。

それでは、プリントの20ページを開いてください。資料20ページの下のほうにやり方が順番に書いてあります。まず、付箋を２枚ずつ取ってください。よろしいでしょうか。付箋を２枚ずつ取りましたか。２枚ずついったでしょうか。それでは、事前にお願いしておりましたが、その具体的にアイデア、私のほうで１個だけ挙げておきましたけれども、薬科大学に行って秋葉区から通える職場はこんなことがありますと紹介するということはどうかということで考えて、それをその表に貼るとしたらすぐできそうだけど、はたしてこれで住んで働く人が来るかということでその四角で切った右側の下の辺りに来るのではないかという感じです。そんな感じでやっていただければと思います。
それでは、進行係のほうから順に、あとで貼ってもらいますのでとりあえず具体的に案を書いてください。時間は３分くらいありますのでよろしくお願いします。まず、付箋のほうに書いてください。細かい説明は要りません。

単語で書いてください。

（グループ討議）

司会　　よろしいでしょうか。ありがとうございました。短い時間の中ですが、活発なご意見ありがとうございます。ここにＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄということで話があった中で、これが一番いいのではないかというものを一つだけ挙げてくださいということで挙げていただきました。かなり、ご無理を言ったかと思います。Ａに関して、企業例や会社のよいところを紹介して、知ってもらう。これがいいのではないか。付け足しありますか。何か説明はありますか。

自治協委員　　豊かで住みやすいところなので、そういうところとセットにして紹介したらいいのではないかという感じだったと思います。

司会　　企業例とか会社とかいいところとか自然もあるからいいと、そういうところをセットにして。だから来たらどうだ若者たちよと、そういうことですね。例えば大学で、現在、新潟によそから来ている人もいるのですけれども、新大とか敬和とか薬科大とか。みんなよその県から来ているのですけれども、その人たちをとどめおくということですよね。アプローチにはなるかと。

Ｂ班。洗脳する。子どものころから地元のよさを親が言い続ける。外に出ても戻って来るようにと言い続ける。笑いますけれども、私たちがやっている愛着と誇りとはこれのことですから。つまり、洗脳して帰って来いといっているわけですから。こんないいところだから、帰って来いよと言っているわけですから。ただ、それだけをとにかく重視すると。今やっていること、こんなにいいところだと小学生、中学生に言っていますので、そういうふうに洗脳していくということです。これを継続してやっていくということで付け足しありますか。いいですか。ほかにもいろいろありましたけれども。

次、Ｃ班。若い人向けの働く場所、例えばＩＴ企業等を誘致する。会社をまず誘致すると。これは、付け足しありますか。

自治協委員　　みんなの意見をまとめたものです。特に付け足すことはないですが、例えば大学で出ていて帰って来られるということであれば、やはり若い人の魅力ある企業が地元にないと戻って来づらくなるかと思いますので、今関心のあるそういうものを誘致したらどうかということです。

司会　　秋葉区にＩＴ企業があれば一番いいですよね。ほかでもどこでもいいのですけれども、そういうやはり最先端の企業が新潟にもあると。

自治協委員　　魅力ある企業があると。

司会　　魅力ある企業があると残ってもらえるのではないかということですね。

自治協委員　　そうです。戻って来てくれるのではないか。

司会　　戻って来てくれると。今、新潟にいる人はどうしますか。

自治協委員　　入ってくれるのではないかと。残ってくれるし戻って来てくれるのではないかと期待して。

司会　　続きましてＤ班。ジモティ支援プロジェクト、これは分からないので説明してください。

自治協委員　　ジモティ支援というのは、今、地元にいる人たち。地元に残って働きたいけれども、外に行かないと仕事ができないという人に地元に残ってもらえるように全面バックアップをするということでございます。
　働きたい子ども、行政やＮＰＯ、ＮＰＯを立ち上げるしかないのかという感じですけれども、地元のよさをＰＲする。今は子どもが働きたくても、自分は何が向いていてと、すごく広い意味になるのですけれども、そういう子がいたら、いろいろな専門家の大人たちがついて、君にはこういうところがあるよと紹介できるようなネットワークを作るといいますか、企業フェスタみたいな感じで集めてフェスタをしたり、農業も今大きい団体になっていろいろな企業化して農業をやっているところがあるというのですけれども、そんな形で若者、農業したくて戻って来たい若者たちもたくさんいますし、県外の農大に行っている人たちも戻って来られるようなＰＲができたらと思います。

司会　　ＰＲして、いたいという人がいたらその人をとにかく全面支援して、会社をやりたいという人も支援するし。

自治協委員　　そうなのです。地元に残りたくても、ここに働く場所がないと思って仕方なく出ていくという方たちを何とかこういうところがあるということを紹介できる人たちがもう少しいればいいと思うのですけれども。

司会　　ありがとうございます。資料を見ていただいて分かるように、職場は山ほどあるのですけれども、ただそこに行かないのです。仕事、求人はあるわけですから。求人はあるのだけれども、そこに行かないで東京に行っているわけですから。そこをどうするかというところだと思いますけれども、それをこういうところでカバーしていくということでしょうね。どうもありがとう

ございました。

いいお話が聞けたのではないかと思います。時間が短くて最後までやり抜くことはできなかったと思いますが、短い時間の中でご協力いただきましてありがとうございます。また、このあと、今日お話いただいたことを今後のまた自治協議会等で生かしていければと思っております。これで、話し合いは終わりにしたいと思います。

最後に一言だけ感想を教育委員お一人ずつよろしくお願いしたいと思います。最初、市嶋委員からでいいですか。

教育委員　今ほどの話し合いも貴重な時間をありがとうございました。本当にアイデアが沸き出てくるくらいぱっぱぱっぱと紙が書かれていくのを見て、本当にすごいという感想で参加させていただきました。このテーマについては本当に正解はないかもしれませんけれども、私も地元でいろいろやっていますと、やはり一人ひとり自分の立ち位置で何かできることを一つでも具体的に動いていくことしかないのかと思います。商店街も商店街の活性化と言いながら跡継ぎを作らないですとか、まず例えば自分で商売している人間であれば、やはり雇用を生む活動をしていないとか、やはり自分ができることを一つでも何か動いていけば、この地域に住んでいく人というのは少しずつですけれども確実に増えていくのではないかという中で、本日皆様方からいろいろな意見をいただきました。また、これも教育委員会でも今後の取組みに私も意見をさせていただく参考にさせていただきたいと思いますので、本日は大変貴重な時間をありがとうございました。

司会　続いてお願いします。

教育委員　今日は、ありがとうございました。私もテーマを考えたときに大学生にどうアプローチしていいかということばかり考えていましたが、グループの中で子どもたちに秋葉の企業がこういうものがあると教えて子どもたちに夢を与えるとか、やはり里山がある、自然がたくさんある、自然を整備して住みよい秋葉を作ろう。本当にそこまで発想が至らなく、本当に一緒に話をしていて驚きがいっぱいでした。

Ｂ班で洗脳するという話がありましたが、本当に私も家が農家なので、周りをみていると農家を離れていく子どもたちが大勢いる中で、やはり自分の地域はいいところだと言っていることで子どもたちが残ってくれるのかと実感をしておりますので、洗脳するというのは笑ってしまいますが、いいところだと言い続けることも大切だと思いました。今日は、本当にありがとうございました。

司会　どうもありがとうございました。それでは、最後に秋葉区自治協議会第３

部会の会長からごあいさつをいただきたいと思います。よろしくお願いします。

第3部会長　皆様、大変お疲れ様でした。教育委員のお二人、ありがとうございました。

私の感想です。学習調査みたいなものがありましたけれども、小学校で96パーセントも宿題をしているのだという主体性というところに、宿題に主体性があるのかと。主体的に対応ができて深い学びに向かっているときに、96パーセントの宿題をやっている子どもたちは主体的なのかという疑問を持つ時代が私はやってきていると思っています。子どもたちはやはり小さいときは、私は小学校のとき学力は多少低くても地頭がよくなれば中学校で持ち直すだろうと思っているタイプの人間なので、それで家でたくさん学習して頭が平均点より少しいいよりも、家で全く勉強をしないけれども学校でしっかりやってそれでも平均点を上回っているというほうがよっぽど魅力的ではないかと。その放課後の時間をたっぷり遊んで、自分たちでいろいろなものを感じ取って新しい創造性を生み出すということが秋葉区には私は向いているのではないかとはっきりと思っています。

また、こういった職場だったりとかも魅力的なということは、ある意味主体的にとんがってリスクを負うことによって魅力は生まれると思うのですけれども、そういったことをしないでぽわんとした魅力なんていうのははっきり言えば生まれないです。だから、自主的、言われたことをやるという自主的なことでは実は本当の魅力は生まれないのです。主体性を発揮して自分でこれをやるのだと、リスクを踏んでもやるのだという気持ちをいかに育めるかがこれからを生き抜いていく力のベースになると私は思っていますので、そういったものが自然の中にはたくさんあります。ということは、秋葉区に実際たくさんあるのです。そういった時間をいかに確保してあげるか。通り一辺倒の地域学習ではなくて、みんな一人それぞれが違う地域学習をするくらいの、やはり多様性とか柔軟性というのがこれから確実に求められていると思います。地域の学習も見れば同じようなことばかりです、はっきり言えば。そうではなくて、もっと柔軟性で多様性でそれぞれ一人ひとりの子どもが選択する余地があるような、やはり学習というものを地域の人たちが本当に考えていかなければならないだろうと。これは、教育委員会サイドだったり学校サイドだけではなくて、地域の人たちが本当に本気になって、その子のたちの将来の重荷を少し背負ってあげるくらいの気持ちを持って携わらなければいけないことではないかと思っております。

これから、本当に地域とコミュニティスクールというものが、これから新潟市でも始まっていくと思いますけれども、そこは学校サイドだけではなくて地域がしっかり手を挙げて、うちの地域がやりたいのだというようなところで手を組んでコミュニティスクールをやっていってもらいたいと思っております。こういった機会を通して、また子どもたちが本当にこれからの時代

	にどういう力を蓄えていかなければいけないか、つけていかなければいけないということをみんなと共有していければと思っております。今日は、貴重な時間をありがとうございました。
司会	どうもありがとうございました。以上をもちまして、第２回秋葉区教育ミーティングを閉会いたします。皆様、長時間にわたりまして本当にありがとうございました。